

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4671300236
法人名	社会福祉法人 百合砂
事業所名	グループホーム 百合砂
訪問調査日	平成22年3月16日
評価確定日	平成22年4月19日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4671300236
法人名	社会福祉法人 百合砂
事業所名	グループホーム 百合砂
所在地	西之表市西之表6095番地 (電 話) 0997-22-1330
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスマネジメント鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成22年3月16日

## 【情報提供票より】(平成22年3月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8人, 非常勤 2人, 常勤換算 9人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~45,600 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	52 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海を望む高台に、同一法人の特別養護老人ホームと隣接して建てられたホームである。和風旅館のような趣があり、各居室の入り口は玄関風になっている。それぞれが一軒の家をイメージして造られており、利用者の状態変化に合わせて、安全に配慮した改良も行っている。広々とした中庭は庭園風に整備されており、天気の良い日は全員で昼食を楽しむことができる。地域行事への参加や“百合砂市場”を通じたお付き合いで、地元の人々との交流をさらに深めるように取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた方針の共有について課題となったが、「重度化した場合における指針」および「看取り介護についての同意書」を作成している。重度化した場合は、段階に応じて本人やご家族、並びにかかりつけ医等の関係者と繰り返し話し合い、方針を共有しながら対応している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、計画作成担当者があらかじめたき台となる評価を行い、それについて全職員が各項目毎に意見を出し話し合いながらまとめている。また、自己評価や外部評価で指摘された項目に関しては、毎月のミーティング等で話し合い、具体的な改善に向けて全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、ご家族をはじめ地域の方や市職員、地域包括支援センター職員等様々な立場から参加され、日頃の様子や評価への取り組み状況を報告するとともに、参加者が意見を出し合い運営に活かしている。開催に関しては、現在3ヶ月に1回のペースで行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	クリスマス忘年会、バーベキュー大会を家族会として開催したり、ご家族の訪問の際に意見や不満、苦情を聞く機会を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ゲートボール大会や運動会、学校行事などの地域行事に積極的に参加するとともに、踊りや歌、読み聞かせなどのボランティアも積極的に受け入れている。また、隣接している同一法人の特別養護老人ホームに“百合砂市場”を開設してもらい、地元の人々との交流に努めている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と職員全員で話し合い、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングで話題に出し、全員で理念を共有している。また、異動等により新しい職員が入ってきた際は研修の中で特に理念について説明している。理念の実践においては、日頃から地域との関わりを閉ざすことの無いように、職員それぞれが自覚を持ち取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ゲートボール大会や運動会、学校行事などの地域行事に積極的に参加するとともに、踊りや歌、読み聞かせなどのボランティアも積極的に受け入れている。また、隣接している同一法人の特別養護老人ホームに“百合砂市場”を開設してもらい、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、計画作成担当者があらかじめたたき台となる評価を行い、それについて全職員が各項目毎に意見を出し話し合いながらまとめ上げている。また、自己評価や外部評価で指摘された項目に関しては、毎月のミーティング等で話し合い、具体的な改善に向けて全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族をはじめ地域の方や市職員、地域包括支援センター職員等様々な立場から参加され、日頃の様子や評価への取り組み状況を報告するとともに、参加者が意見を出し合い運営に活かしている。開催に関しては、現在3ヶ月に1回のペースで行われている。		地域の様々な方の意見をサービス向上に活かすためにも、2ヶ月に1回(年6回)の開催ができるように検討していただきたい。また、会議は隣接する特養で開催しているので、時にはホームの行事と関連づけて開催するなどして、市職員などが直接ホームを訪れる機会を設けていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度運営面等について、頻繁に市を訪問し相談しているほか、運営推進会議にも市職員が出席している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便り「ひだまり」を発行して、行事の様子や職員の異動等について報告している。また、紙面には近況報告欄を設けており、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態について、担当者が手書きで報告している。金銭管理については、預かり金収支報告書及び金銭出納帳の写しを送り、確認の後、返送していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	クリスマス忘年会、バーベキュー大会を家族会として開催したり、ご家族の訪問の際に意見や不満、苦情を聞く機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や結婚退職など、職員の入れ替わりが見られたが、退職の際は新旧職員が半月ほど引き継ぎを行うなど、利用者へのダメージを防ぐための配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修及び法人内研修を毎月実施している。参加できなかった職員にもミーティング等で伝達講習を行うなど、職員の育成に積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者間での連絡協議会等は組織されていないが、他のホームの職員研修を受け入れたり、同一法人のホームとの合同イベントを通じて、交流を図りながらサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人及びご家族にホームを訪ねていただき、納得した上で安心してサービスを利用できるように支援している。また、入院中の方の場合は、管理者や計画作成担当者が入院先の病院を訪ねるなどして、馴染みの関係を築くように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔から行われている地域の行事と一緒に参加したり、利用者の得意な園芸についてアドバイスをいただくなど、お互いに学び合い支え合う関係を築いている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの思いや暮らし方の希望を尊重し、その実現に向けた支援を行っている。会話が困難な方に関しては、日頃の様子や反応から推察したり、ご家族に自宅で暮らしていた頃の様子を確認するなどして対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及びそのご家族、管理者、日々ふれ合っているケア担当者等々、必要な関係者の意見を確認しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア担当者による毎月の評価及び計画作成担当者による3ヶ月毎のモニタリング等を通して、対応できない状態変化が確認できた場合、本人及びご家族と話し合い計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関の受診支援、外出や外泊、墓参りの支援、ご家族の宿泊、訪問美容の利用など、要望や状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族が希望されるかかりつけ医と連携しながら、適切な医療を受けられるように支援している。現状では、協力医療機関がかかりつけ医となっており、きめ細かな対応がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における(看取り)指針」及び「看取り介護についての同意書」を活用して、入居の段階で説明している。その後段階に応じて、本人やご家族、並びにかかりつけ医等の関係者と繰り返し話し合い、方針を共有しながら対応している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を損なうことの無いように、親しみのある方言も使いながら対応している。個人の記録類については目につかないようカーテンで隠すなど、個人情報に関しても適切に管理している。ボランティア受け入れの際には、秘密保持について説明の上、誓約書を提出してもらうなどの取り組みも行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間をそれぞれの生活リズムに合わせて配慮するなど、ホームの決まり事を優先することなく、利用者のペースや希望に合わせた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや味見、盛りつけ、後片付け、茶碗洗いなど、利用者の力に応じて参加していただいている。また、ご家族からの差し入れやホームの菜園で採れた季節の野菜を使い、利用者の希望も取り入れながら、食事が楽しいものとなるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	それぞれ方の希望やタイミングを大切にしながら、時間帯や順番などについて柔軟な対応をしている。拒否気味の方については、ご家族とも連携しながら無理強ひすることなく支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ADLの低下が進み、できないことも増えているが、一人ひとりの生活歴や仕事歴、趣味や好きなことを把握し、張り合いや喜びを感じることができるよう、詩吟や短歌、日記などを楽しめるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子の方や歩行に介助の必要な方も多いが、中庭の散歩や隣接する特養の行事見学、ドライブや花見、買い物など、本人の希望も考慮しながら日常的に戸外に出かけられるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者に対しては、ホームの職員や隣接する特養の職員に加え、地域の人々の協力も受けて見守りを行いながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いのもとで、年2回の避難訓練を夜間想定も含めて実施している。隣接する特養に加え、地域の人々の協力が得られるように日頃から働きかけを行っている。台風等を想定した備蓄も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護観察記録に、バイタルや入浴状況とともに、食事や水分の摂取量を記録して情報を共有している。また、栄養士の資格を有する職員が2名在籍しており、専門的見地から栄養バランスに配慮した食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや室内に季節の花々が多く見られ、中庭の木々とともに季節感を豊かに味わうことができる。また、天窓からは明るい光が差し込み、リビングに隣接した台所で料理を作る様子や匂いを感じることができ、生活感のある共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや位牌、CDプレイヤーやご家族の写真など、数々の使い慣れたものや馴染みのものが居室に持ち込まれており、利用者が居心地良く暮らすことができるように工夫している。		